

全体計画概要

東京女子医科大学は、下記に示すローリング計画によりキャンパス全体を再整備していく構想を検討しています。可能な限り早い段階に病院の安全性・機能性を向上するべく、新病棟を建設する為に、建設予定地の既存校舎の移転が必要となります。移転先としては長い間地域に愛されてきたが役割を終えて機能を停止していた1号館等の建設跡地が適しており、止む無く解体をすることにしました。その新校舎棟-1の建替を最初のステップとして、各施設を段階的に整備を進め、各敷地に点在している病院と大学を機能的にエリア分けしていく予定です。

本計画の段階



【計画内容】 ①南側敷地に新校舎棟-1を建設
 [規模] 延べ面積 20,000㎡程度
 階数 地上7階/地下2階
 高さ 約36 m
 [許認可] 高度地区認定、日影許可他

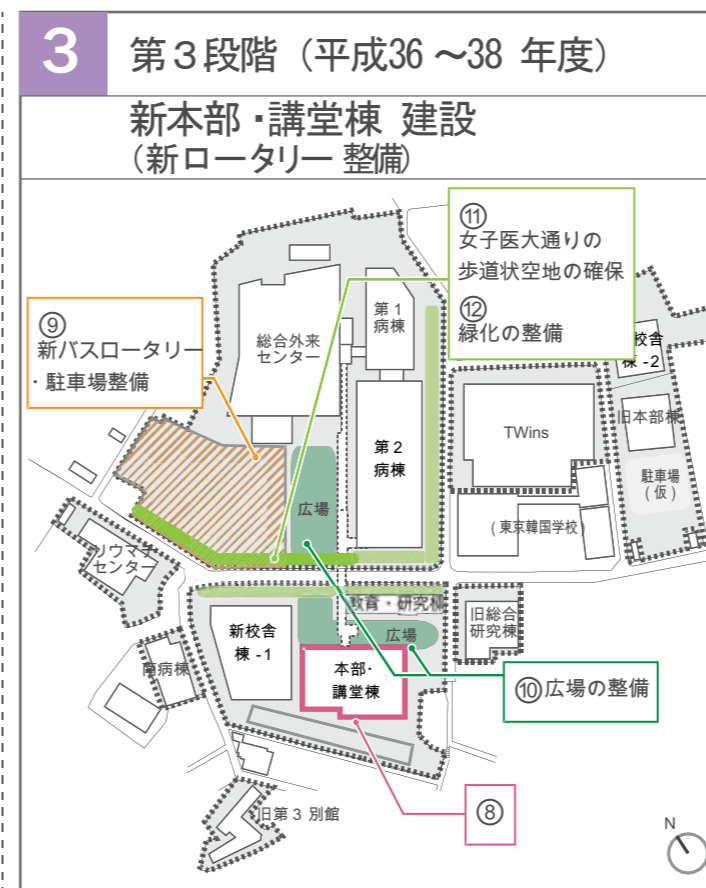
②北東側敷地に新校舎棟-2を建設
 [規模] 延べ面積 4,700㎡程度
 階数 地上4階/地下1階
 高さ 約20 m

【周辺整備】 ③女子医大通りの歩道状空地の確保
 ④緑化の整備
 ⑤防災備蓄倉庫の整備(一部地域用)



【計画内容】 ⑥北側敷地に第2病棟(仮)を建設
 [規模] 延べ面積 未定
 階数 未定
 高さ 未定

【周辺整備】 ⑦女子医大通り北側の歩道状空地の確保と緑化の整備



【計画内容】 ⑧南側敷地に本部・講堂棟(仮)を建設
 [規模] 延べ面積 未定
 階数 未定
 高さ 未定

【周辺整備】 ⑨新バスロータリー・駐車場の整備
 ⑩広場の整備(トリアージ利用検討中)
 ⑪女子医大通りの歩道状空地の確保
 ⑫緑化の整備



【地域貢献】 ・女子医大通りの歩道状空地の確保
 ・緑化の整備
 ・駐車場出入口の整理による女子医大通りの渋滞緩和
 ・災害時に広場のトリアージスペースとしての利用検討
 ・防災備蓄倉庫への一部地域住民用の防災備品の整備

参考：全体マスタースケジュール ※想定イメージであり変更することがあります

年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年																																																												
年度	平成28年度			平成29年度			平成30年度			平成31年度			平成32年度			平成33年度			平成34年度			平成35年度			平成36年度			平成37年度			平成38年度																																									
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12																											
全体マスタースケジュール	設計												新校舎棟-1,2建設												中央・北校舎等 建築費C解体												第2病棟建設												中央・東病棟 西病棟 解体												本部・講堂棟他大学施設棟建設											



東京女子医科大学 景観コンセプト

1. 伝統

100年以上の歴史を紡いできた東京女子医科大学は、常に地域と一体的に景観を形成してきました。

現在も残り続ける東京女子医科大学としての伝統を重んじた、落ち着いた風景を、今後展開されていくキャンパス再整備計画においても守るべきものとして継承していきます。

2. 品格

世界的にも類を見ない女子医大としてのブランドと品格を表している外観の佇まいと、信頼感と重厚感のある建物の外観デザインで、統一感のある施設群とします。

3. みどり

地域の大規模なみどりの空間を担う存在として、敷地内の緑化を積極的に進めていきます。特に、女子医大通りは連続的なみどりの空間を形成し、将来的には敷地内の広場と一体的に、大規模なみどりのスペースとなるように計画しています。



全体計画における第4段階整備完了イメージ
※検討中のものでありあくまでも参考イメージです

伝統のある東京女子医科大学の新校舎にふさわしい歴史の継承に加え、大学関係者や地域の方々に親しまれる外観デザインとします。

1.1 号館の記憶の継承

老朽化によって解体された1号館は85年間大学関係者だけでなく地域にも親しまれていました。印象的な庇部分のタイルや、丸みを帯びた開口部をモチーフに新たにデザインすることで、1号館の面影を感じる外観とします。



1号館（解体前）



新校舎棟-1イメージ図



新校舎棟-1低層部イメージ図



■ **タイルによる重厚感のある外観**
1号館の壁面は重厚感のあるタイルによる立面構成となっています。外壁の大部分をタイルで構成することで、重厚感のある外観を形成します。



■ **開口デザインのオマージュ**
当時は窓に用いられたデザインを吉岡弥生記念室の外部側の展示ケースに採用します。歩行者の目に留まりやすい展示ケースという新たな役目を与えることで、より当時の面影を感じる外観とします。



■ **印象的なタイルデザインの継承**
1号館の庇に用いられていたタイルのデザインをモチーフにしてメインエントランス側の外観を形成します。印象的なデザインを壁面に帯状に配置することで、歩行者が1号館の面影を感じられる外観とします。

2.東京女子医科大学を印象づける景観づくり

外観を構成するタイルや色彩に統一感を持たせることで、東京女子医科大学の印象をより深める景観づくりをします。



新校舎棟-1 正面(北面)イメージ図



河田町敷地パノラマ写真



中央病棟と渡り廊下



教育研究棟と渡り廊下



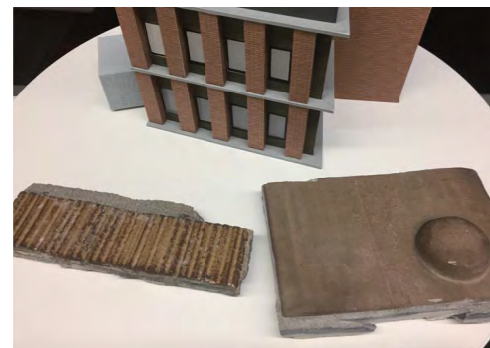
東病棟



総合研究棟

3.歴史・信頼感・伝統ある東京女子医科大学のブランド力の強化

重厚感と陰影のある表情と、品格あるたたずまいを持った外観とします。



解体前にタイルの部分的な保存をし、模型やCGなどにより検討を進め、早期に見本焼きを作成し、単なる再現ではない意匠を検討しています。



シンボルツリーとなる保存樹の見え方を初期段階から検討した外観デザインを検討しています。



品格のある佇まいを際立たせる陰影や重厚感を生み出す凹凸のデザインを計画しています。



女子医大通りの西から計画地を見た様子（現状）



女子医大通りの西から計画地を見たイメージ（計画）
歩道状空地により歩道空間が広く確保されます



女子医大通りの東から計画地を見た様子（現状）



女子医大通りの東から計画地を見たイメージ（計画）
緑のシークエンスにより豊かな歩行空間が形成されます